

を支援しているところですが、令和5年度は4件の申請があり、雇用の拡充につながったところであります。

引き続き補助制度を幅広く周知して、民間の創業や事業拡大を推進し、雇用の受け皿の確保と地域産業の活性化を図ってまいります。

## ②安全・安心な社会基盤づくり

### (1) 防災体制の整備について

近年は全国各地で大規模な災害が多発しており、防災・減災対策の強化が喫緊の課題となっております。

新年度は、昨年取りまとめた災害時要配慮者の個別避難計画がいざという時に活かされるよう、地区をはじめ関係機関とも連携して取り組んでまいります。

また、災害に強いまちづくりには、住民の皆様が日頃から防災への関心を深めていただくことが重要ですので、情報発信や防災学習会等により防災意識の向上を図ってまいります。

### (2) 社会インフラ整備について

国の公共事業は、「国民の安全・安心の確保」などに重点をおき、「防災・減災・国土強靭化のための5か年加速化対策」をはじめ、国土強靭化の着実な推進に向け、防災・減災が主流となる安全・安心な社会を構築し、加えて通学路の交通安全対策など重点的に取り組むこととしております。

本町におきましても、防災・減災力強化を念頭に、島根県と連携を図りながら、新たな施設の整備をはじめ、既存施設の老朽化対策、交通弱者の安全対策等を計画的に進めてまいります。

道路関係では、県事業による改良工事が国賀海岸線、珍崎浦郷港線で引き続き行われる予定となっております。

町事業では、摩天崖駐車場の整備、町道大山線の拡幅、通学路の安全対策及び町道の老朽化対策を進め、林道では新規事業として高崎線の着手、焼火線の未舗装区間の整備、引き続き黒木線の法面崩落危険箇所への落石対策を行い、安全確保を図ってまいります。

港湾関係では、県事業による別府港（十景地区）の新岸壁整備が最終年度を迎えます。

町事業では、大津地区での高潮対策について基礎工事を進め、また老朽化対策として施設修繕の計画を策定していくこととしております。

漁港関係では、町事業で引き続き珍崎漁港内に臨港道路を新設する工事を進めてまいります。

砂防関係では、別府地区の中別府川、西ノ島小中学校付近の太井谷川で整備が継続されるほか、新規事業として倉ノ谷地区で事業が開始予定となっております。

治山事業では、物井地区で事業が継続され、新規事業として波止地区において事業が開始予定となっております。引き続き、事業実施に向けて島根県と連携して準備を進めてまいります。

## ③幸せを実現する生活環境づくり

### (1) 保健・福祉に関する計画について

高齢者、障がい者、児童等、地域共生社会の実現に向けて、令和6年度末までに総合的な計画の策定を予定しております。

本計画は、次期総合振興計画に合わせ、令和7年度から16年度までの10年を計画期間として、地域福祉計画や健康増進計画など合わせて10の計画を一体的に策定することとしております。誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域福祉に関する施策の方向性を示してまいります。

### (2) 高齢者福祉について

持続可能な介護サービス提供のため、グランドデザインの策定を現在進めているところであります。

住民アンケートや事業所ヒアリング等が完了しましたので、今後は関係機関で課題を共有して議論を深め、地域の実情に応じた取組を将来ビジョンとして描いてまいります。

養護老人ホームみゆき荘においては、非常用自家発電設備、空調設備等の更新を行い、入居者が安心して生活できる環境整備を図ってまいります。

### (3) 医療・介護人材の確保について

全国的に働く世代が減少する中、本町においても、医療・介護従事者の確保が深刻な課題となっております。引き続き、隠岐島前病院や介護事業

所と協力し、養成校との連携や外国人材の活用など、人材の確保に努めてまいります。

### (4) 子育て支援について

国の少子化対策として、「こども未来戦略」により、子育て世代の経済的支援の強化等に取り組むこととされたところであります。

本町では、県の協力の下、本町独自の子育て世代への支援として、新たに小学校・中学校への入学時に一時金を交付することといたしました。

また、シオン保育園は、新年度から教育・保育を一体的に提供できる「認定こども園」に移行されます。

町としましても、この認定こども園に対して、施設の耐震化やフェンスの設置に対する助成を行うこととしており、今後も園児や保護者が安心できる環境づくりを支援してまいります。

町ぐるみで取り組んできた「子育てしたくなる島づくり」を目指して、今後取組を進めてまいります。

### (5) 上下水道関係について

上下水道関係では、引き続き、浦郷地区内の老朽管路の更新を行い、耐震化率の向上を図り、美田浄水場の臭気対策に向けた施設改修を行ってまいります。

また、水道施設の維持管理につきまして、新年度から民間事業者による業務を委託し、水供給に係る水質の安定化等を図ってまいります。

下水道関係では、引き続き東部浄化センターや中継ポンプ施設の老朽化対策として設備更新を行うとともに、美田地区・東部地区の施設集約を含めた広域化に向けて事業を着手してまいります。

また、下水道及び合併浄化槽の普及率向上に取り組んでまいります。

#### (6) 火葬場関係について

火葬場の建て替えについては、令和5年度に検討委員会を設けて様々な視点から審議が行われ、美田地区内の建設候補地を推す形で全体意見がまとまったと伺っております。新年度は具体的な調査を行い、用地取得及び詳細設計を進めてまいります。

葬場の建て替えについては、令和5年度に検討委員会を設けて、様々な視点から建設候補地について審議が行われた結果、このたび候補地が決定しました。

新年度は、用地取得及び詳細設計を進めてまいります。

#### (7) 環境関係について

ごみ関係では、近年ごみの排出量が増加傾向にあることから、排出量の削減やリサイクルの推進など循環型社会の実現に取り組んでいくところであります。

これまでの資源ごみの回収や島外出荷等の取組により、リサイクル率は上昇してきましたが、県内他町村と比べますと低い状況ですので、引き続き

サイクル推進に向けて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

#### (8) 総合公園の改修について

西ノ島総合公園は、昭和62年から平成8年にかけて順次整備されておりますが、現在では老朽化した施設が多いことから、施設の長寿命化対策を図っていく必要があります。

こうしたことから、新年度は施設の改修計画を作成し、利用者にとって安全・安心に利用できる施設となるよう対策を講じてまいります。

### ④次代を担う人づくり

#### (1) 教育関係について

学校に行きづらい児童・生徒を対象とした「西ノ島町教育支援センター」を2月に中央公民館に設置したところであり、センターでは、対象となる児童・生徒の心のケアをはじめ、復学に向けた支援に取り組んでまいります。

また、児童・生徒の学力向上やふるさと教育の推進を図っていくため、新たに島前ふるさと魅力化財団との連携により、学校コーディネーターの配置や公営塾の運営等の取組を進めてまいります。

そのほか、多様化する中学生のスポーツ・文化活動に対応するため「西ノ島町地域クラブ活動参加費補助金」を創設し、生徒一人ひとりが活躍できる機

会を支援するよう取り組んでまいります。

#### (2) 町史編さん事業について

平成7年に町誌「隠岐西ノ島の今昔」が発刊され、町民の学習資料のみならず、行政資料としても重要な役割を担ってきたところであります。

しかし、発刊から30年近い歳月が過ぎ、町を取り巻く情勢は変化しており、本町の民俗・慣習を伝える世代の高齢化によって情報の収集も困難になってまいります。

新たな町史編さんには膨大な時間と労力を要するものと思いますが、郷土の歴史を後世に残すため、その準備に取り掛かる考えであります。



▲平成7年に発刊された「隠岐西ノ島の今昔」

### ⑤新しい人の流れの創出

#### (1) 企業誘致について

昨年から供用開始した「西ノ島町テレワークオフィス」のワークキングスペースは、地域住民と企業との交流の場として、多くの皆様から高評価をいただいております。

今後も施設に親しみを持って利用していただけるよう、新年度はホームページを開設して、会議室等の予約や問い合わせがWeb上で行えるよう利便性の向上を図ってまいります。

また、サテライトオフィスに拠点を設けた企業が、この春、初めて地元雇用をされると聞いております。

引き続き、新たな企業の進出につながるよう、本町でのテレワークやワークショップ体験ツアーの提案等の情報発信、誘致活動に取り組んでまいります。

#### (2) 移住・定住対策について

人口減少が進む中、本町への移住・定住を促進するため、島暮らしの情報発信や子育て支援の充実、住環境の整備等に取り組んできたところであります。

依然として、都市住民の地方移住への関心は高い状況と感じており、こうした動きを捉えるため、本町の子育て支援や移住支援等に関する情報を発信するとともに、移住イベントや移住体験ツアー等を通じて、移住を検討されている方に本町の魅力を直接アピール